

JSR株式会社
2019年3月期第3四半期 決算補足説明電話会議 議事録
(2019年1月28日開催)

決算補足資料:

http://www.jsr.co.jp/pdf/ir/h31_2019/h31_3_h_d34h.pdf

P1 決算ハイライト 1

- ・18Q3 累計実績と通期見込。
- ・2018 年度第 3 四半期 (3Q) は良好な実績となった。
- ・通期計画に対しても順調な進捗となった。累計の対計画進捗率は営業利益で約 79%、最終利益で 83%。
- ・当 3Q の顧客業界は、合成ゴム市況は低調に推移。中国向けなど不透明感が高まった。半導体、ディスプレイ業界は、当社製品の需要は堅調だった。為替は当初想定 105 円に対し 113 円の 8 円の円安。
- ・合成ゴム、合成樹脂は数量増と売買スプレッドの改善、先端半導体材料、配向膜等の拡販、ライフサイエンス事業の成長加速により、3Q 単独として高い利益を達成。

P2 決算ハイライト 2

- ・各事業の対前年同期 (YoY)、対前期 (QoQ) の比較。
- ・前年同期比、前期比とも増収増益となった。
- ・対前年同期は、エラストマーが減益となるも、他の事業は増益となり全体として増益となった。ライフサイエンスの増収幅大きく昨年の赤字から黒字化。その他・調整額は主に次世代研究費 (JKiC) の増加。
- ・QoQ 対前期では、全セグメントで増収増益。Q2 以降、需要業界に不透明感があるものの、各事業売上と利益の拡大を達成した。

P3 セグメント損益 エラストマー事業

- ・セグメント別損益のエラストマー事業。

環境

- ・国内タイヤ生産は 8 月以降成長が鈍化。タイヤ販売は中国がマイナス成長。世界の自動車生産も 9 月にマイナスに転じる。総じて需要環境は悪化の傾向となった。
- ・合成ゴム市況は、主要原料であるブタジエンが当期 3Q 平均 1087 ドル/トンと下落。ナフサ価格 (MOPJ) とのスプレッドも縮小。その他の主要原料も軒並み下落した。

YoY

- ・営業利益は対前年-43%と大幅に減少。
- ・数量は SSBR の販売が伸びたものの、価格差が-26 億円。前年度は、2016 年度 4Q にブタジエン価格が 2600\$まで急高騰し翌17年度 1Qのプライシングにも反映され利益が大きく増加したものの。
- ・その他-20 億円。在庫の受払要因、ハンガリー立ち上げ費用、販売費、老朽化対策等のコスト増。残りの-15 億円は、昨年は一過性の利益発生等があった。

QoQ

- ・増収増益となった。
- ・販売数量は国内、輸出共対 2Q で増加したが、需要環境としては中国中心に弱含んだ。又ブタジエン価格は 2Q 後半から 1000\$近辺まで下落。ブタジエンナフサスプレッドも一時 400 ドル割れの水準まで落ちた。
- ・そのような環境下ではあるが、営業利益は QoQ で増加。数量増と売買スプレッドの改善。一方、その他、では持分法利益の減少。原料価格高の影響。四半期ずれの 7-9 実績を当期に反映した。

P4 セグメント損益 合成樹脂事業

- ・セグメント別損益 合成樹脂事業。
(環境)

- ・ABS 樹脂の需要環境は、汎用市況は下落。当社の取り扱う特殊品分野の需要は堅調。
- ・原料市況は、主要原料であるスチレン、ブタジエン、アクリロニトリルは、2Q までは価格上昇を続けたものの、3Q に入り下落した。
- ・当事業は 2018 年 4 月より旧 UMG と統合した。

YoY

- ・営業利益は、数量差及び価格差によりマイナス。全体では旧 UMG の加算により増益となった。数量は対前年 3%程度減、前年同期の営業利益率は 12%を超え収益環境としては良すぎた面があり。そこは当初から割り引いて計画している。

QoQ

- ・数量は、国内は増加したが輸出が減少した。輸出減は低採算分野の展開縮小。需要環境そのものは変化していない。
- ・当年度 1Q、2Q の原料価格上昇に対する製品価格の転嫁を行い増収増益となった。

P5 セグメント別損益 デジタルソリューション事業

- ・セグメント別 デジタルソリューション事業。

(環境)

- ・需要業界は、デバイス価格の下落など不透明感はあるものの、3Q は半導体、ディスプレイとも堅調に推移。
- ・半導体業界は、12月時点の2018年シリコンウエハー出荷面積見通しはYoY +5.9%。当社の顧客業界の稼動も堅調。
- ・ディスプレイ業界は、12月時点の2018年度パネル出荷面積見通しはYoY+7%。当社の顧客業界の稼動も堅調。

YoY

- ・売上収益は半導体材料が対前年+7%と好調を継続。先端ライン向け ArF レジスト等が順調に販売を伸ばした。
- ・ディスプレイ材料は、配向膜、絶縁膜など主要事業は中国向けなどに数量を拡大したが、着色レジストの販売減によりディスプレイ材料全体では売上高は微減。
- ・エッジコンピューティング材料は、需要業界の生産調整を受け売上高は減少した。
- ・営業利益は、主に半導体材料の数量増により増益となった。

QoQ

- ・売上収益は、全事業が増加した。半導体材料、ディスプレイ材料とも1Qからの好調を継続した。半導体の後工程で使用される実装材料は中国向けで減少した。エッジコンピューティング材料も3Qは更に回復。
- ・営業利益は数量増による増益。その他、は主として会計上、2Qと利益の入り繰りが発生し3Qにまとめて計上されたもの。

P6 セグメント別損益 ライフサイエンス事業

- ・当事業はエラストマー、デジタルソリューションに続く当社の第3の柱と位置付け、当期よりセグメントを独立した。
- ・当分野では自社材料の展開に加え、MBL、KBI、SELEXIS、Crown 等関連する企業に出資し、戦略的な基盤を整えた。今年度5月末に買収が完了したCrownは6月以降当決算に反映されている。
- ・顧客市場であるバイオ医薬品市場は年率10%前後で成長している。当社はユニークな製品・サービスで市場成長を大きく上回る成長を遂げている。

YoY

- ・売上高は対前年+72%と大きく拡大。KBIのCDMO事業が順調に拡大した他、自社材料のバイオプロセス材料(Amsphere A3)や診断薬・中間体の販売も好調。昨年度2Qから連結のSELEXIS、

当年6月から連結のCrownも寄与。

・営業利益は大幅に改善し今期は黒字。昨年はKBIやAmsphereA3の増投資等先行費用が高かったが、売上成長で大幅な増益となった。

QoQ

・売上高はQoQ +27%増と大幅に増加。診断薬、バイオプロセス、医薬品開発受託すべてで売上が拡大した。営業利益も大幅に増加。

P7 連結損益計算書

- ・2018年の第3四半期は、対前年+20%の増収。各事業売上の売上増と合成樹脂の統合効果。
- ・売上総利益は+15%の増加。
- ・販売費・一般管理費は対前年+125億円。新規連結(Crown、UMGなど)で半分程度、その他運送費、人件費、試験研究費等が増加した。
- ・その他の営業収益では、昨年度10億円の一過性の利益の計上あり。
- ・営業利益は379億円。対前年+8億円。
- ・金融収支は利益側に8億円。為替差益の影響。昨年比ではマイナス。
- ・法人所得税を引いた当期利益は294億円、非支配持分の利益を引いた、親会社株主の当期利益は277億円。

P8 連結財政状態計算書

- ・資産合計は、6932億円となり、前期末から+455億円増加。
- ・流動資産は、前期末から130億円の減少。UMGの統合により営業債権、棚卸資産が増加したが、Crownの買収、7月に実施した自社株買い等により現金が減少した。
- ・非流動資産は、前期末から585億円の増加。有形固定資産は、UMGの統合と設備投資により増加。のれんはCrownの買収により増加。
- ・負債は、2578億円となり、前期末から+217億円増加した。
- ・流動負債は、251億円増加。UMG統合による増加が主なもの。
- ・資本は4354億円で、+238億円の増加。利益剰余金の増加とUMGの統合で非支配者持分が増加。7月より50億円の自社株買いを行った。

P9 Appendix 四半期推移

- ・過去1年間の各セグメントの売上収益・利益推移を掲載。

P10 Appendix 通期予想

- ・当年度通期の計画は当初数値から見直しは行っておらず、変更はなし。
- ・減価償却費、資本的支出、研究開発の実績を記載している。

・資本的支出と研究開発費の 3Q 累計実績は対年度計画に対して進捗大きい。理由は当年度連結の Crown、UMG の費用は年度計画には含めておらず。又一部前倒しや追加投資も含む。

(足元の各事業の需要環境)

エラストマー

需要環境は 3Q と同様の弱含みが継続すると見込む。ブタジエン価格は 1000 \$ で底をつき足元若干戻す傾向。BD ナフサスプレッドは 10 月に一時 400\$割れしたものが現在は 600\$台後半まで回復している状況。4Q については全般に 3Q 並みの収益環境であろう。期末の定期修繕により固定費の受払差も含めて固定費は増加見込み。JMSR は年度末に完工見込み。2019 年度よりサンプル出荷を開始する。減価償却費の発生は次年度からとなる。

合成樹脂

当社が属す特殊 ABS 樹脂市場は自動車向けに堅調。製品価格改定が順調に進んだため、当 3Q の売買スプレッドは 4Q に向けて維持される見通し。UMG との統合は順調。今年度はシステムや組織統合などの活動を推進している。

デジタルソリューション

半導体は 2018 年 3Q 累計 YoY+7%と市場を上回って成長。当社は最先端ラインでシェアを拡大しており、当面市場を上回る成長が持続する。シリコンウエハー市場は 2019 年も 5%超の成長は維持するとみるが、顧客業界は年末より一部生産調整の動きもみられる。季節性もあり 4Q は 3Q 対比では減収の方向であろう。

ディスプレイ材料は、顧客のパネル工場は、3Q は高稼働を継続した。4Q は旧正月もあり稼働調整を見込むため当社販売も 3Q 対比では減収の見込み。一方、当社の主力製品の中国シェアは確実に伸びており今後も堅調に推移すると見ている。

ライフサイエンス

当初見込み以上の売上収益増を達成している。幅広く顧客需要を取り込んでいる。KBI の Phase3 案件で FDA 承認を得るなど、顧客とのプロジェクト数も進捗し件数も拡大している。4Q の売上は好調な 3Q 並みを見込む。2019 年度に向けてはトップラインの高成長が継続的に期待できる。当事業の将来の売上収益の目安となる顧客とのプロジェクト数については、CDMO 事業については、2017 年度対比、40%近く増加している。

会計上の事項として、Crown 買収に関わる PPA (Purchase Price Allocation) の手続きを会計法人と行っている。仮に、年度内に終了し、一部が償却資産と認定される場合には償却期間に応じた当年度分の償却費を 4Q に計上することになる。

その他、4Qに想定される事項としては、期末に一部環境引当金の計上を見込む。
昨年度4Qに発生した持分法損益の急激な悪化、設備廃棄損等の比較的大きな特殊費用は現在見込んでいない。

以上より短期的には、4Qは利益的には3Qに対しては厳しくなると想定される。

2019年度に向けては、需要環境は不確定な要素もあるが、合成ゴムではSSBRの拡販、合成樹脂は統合シナジー追求、デジタルソリューションは先端材料の採用拡大、ライフサイエンスは成長の継続により、事業拡大を推進していく。

通期見通しについては今回変更を行っていない。

前述通り、中国市場の減速懸念等世界経済の不確定要因により、需要業界の動向や、関連市況、為替等不安定な状況が続くと見込まれ、細心の注意を払い事業運営を行っていく。

以上